

滝ノ町のバス路線は住民の目線で改善を

「はっぴいバス」は、市民の意見が反映した利用しやすい運行で昨年利用者が10万人を突破しました。

ところが、滝ノ町を通る阪急バスが今年の春に1日15便を9便に減らし、滝ノ町で住宅地内を折り返しJR長岡京駅だけの運行にし、これまであった東向日駅行きは週1本だけで、事実上廃止になりました。

皆さんからは「阪急バスの本数が減って利用しづらい」

「阪急東向日駅に行けなくなった」「住宅地をはっぴいバスが走ることに賛成したが、路線バスが走るのはいない」「滝ノ町の2つのバス停からJR長岡京駅と阪急東向日駅行きに乗り降りできるようにしてほしい」と意見が上がっています。

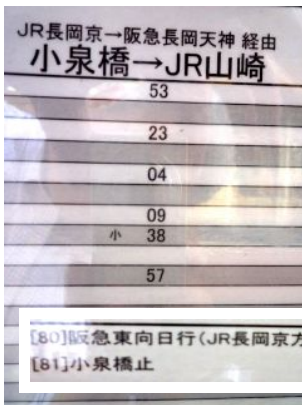


滝ノ町内の住宅地を走る阪急バス

路線の改善を議会で求める

公共交通空白地解消の「はっぴいバス」の地域で、阪急バスのダイヤが改悪されているのは、これから検討が始まる「長岡京市地域公共交通総合連携計画」からみても問題です。一般質問で改めて阪急バスへ改善の申し入れを求めました。

市長は「言われるように滝ノ町を通るバス路線の改善と、阪急新駅で新しいバス路線の検討は必要です」と答弁しました。



←一日9本に減ったダイヤ
こと示す運行表↓
JR長岡京駅でなくなった

救援募金 引き続き受け付けています。

●郵便振替(下記のいずれかの口座にお振込みください。)

□座番号:00170-7-98422 □座名義:日本共産党中央委員会
□座番号:01090-6-0084306 □座名義:日本共産党京都府委員会

※通信欄に「地震救援募金」「台風救援募金」など、募金の主旨がわかるようにご記入ください。手数料はご負担をお願いします。

暮らしの相談ごと、
あなたのご意見をお寄せください。

党議員団(直通)

電話955-9551 FAX955-9741

e-mail jcpnagaokakyo@gmail.com

来年度予算要求に
活かしていきます!

日本共産党長岡京市会議員団

検索

よろしければおきかせください。

お名前

ご住所

お電話

成安公園を

現状のまま残して！



木々が砂場や遊具に日かげをつくる公園は市内でも貴重です。

成蹊大学移転後に、再来年9月開校予定の立命館中・高等学校建設計画の地元説明会が開かれました。住民から、大型トラック工事車両通行による安全面の問題をはじめ、日影やプライバシー問題など多くの意見・要望が出されました。

小さな子どもを育てる若い世代から、敷地内にある無償で市民に提供されてきた成安公園が、2ヶ所に分割される問題について、「広くて、夏でも日影があり1年中遊べる他にない貴重な公園、赤ちゃんからお年寄りまでたくさんの人が、コミュニケーションの場となっている公園を分割しないで！」と切実な要望もありました。



さまざまな地域からたくさんの親子が自転車でやって来ます。

「市は、住民の住環境を守るとともに、成安公園の現状維持また、買収により確実に市の公園とするために、立命館に求めるべきだ」と一般質問で取り上げました。市は「立命館に対し誠意をもって説明・回答するよう指導する」また、「成安公園については地元の意見をできるだけ取り入れた計画になるよう調整していく」と答弁しました。今後も市民の切実な要望の解決にむけて、全力でがんばります。

9月、福島県相馬市・南相馬市に、津波にさらわれた民家のガレキ処理と仮設住宅での日本共産党からの救援ボランティアに参加してきました。

海岸沿いは、根こそぎ津波にさらわれ、地域がそのまま消えている、少し離れた地域では、家としては残っても、1階だけが無残にも津波にさらわれ何もなくなっている、多くの小舟が田んぼに残されたまま。海沿いの常磐線は線路ごとさらわれて、一部を道路として使っている、田植えをした田んぼと稲穂の間から多くの雑草が見える田んぼとが同じ地域の中で混在し農家の苦悩が・・・これらが6ヶ月経過した被災地の実際でした。

突然に家も地域も奪われた多くの被災者の人々がとりあえずの仮設住宅に身を寄せておられましたが、安心して暮らせる保障がないまま、「期限は2年間と言われているが、先を考えられない」と寂しそうに話されていました。

長期に渡って可能なボランティアは必要だと思いましたが、住民本位で取り組む地域まるごとの復興へ公的支援が不可欠であり、それにも増して前に向かえないでいるのは、メドすら立たず、広がり続けている放射能汚染のためだとも実感しました。この状態で、原発再稼働と輸出などの首相発言はとんでもないことです。



半年たっても多くの

被災地 南相馬で！。

仮設住宅は大小さまざま



福島第一原発から23
キロ地点にあるボラ
ンティアセンター

保育所・学校 給食の食材

産地や 放射線測定の公表を

東京電力福島第一原発事故で大量の放射線が放出し、とりわけ子どもや妊婦への影響が懸念されています。その中で、国の暫定基準値への不安の声、放射能の除染や自主避難への支援、また、農水産物の線量測定や結果の公表の徹底をを求める声があがっています。

9月議会一般質問で、原発に対する市の姿勢とあわせて、学校・保育所の給食食材の産地や測定結果の公表、学校での放射能教育は、国がこれまで進めてきた原発推進の立場の内容ではなく、命の尊さを語り継ぐ長岡京市の「平和ビジョン」の立場で行うことを求めました。



「さよなら原発」集会&デモに子育て仲間と参加。写真は9月10日の集会。

食品名	主な産地名	食品名	主な産地名
精白米	京都府	11 しょうが	高知県
じゃがいも	北海道	12 みつば	高知県
ごぼう	栃木県	13 なし	京都府
ごまつな	京都府	14 りんご	長野県、東京都
だいこん	北海道・石川県	15 きゅうり	北海道
		16 プロックロー	大分県
		17 ビーマン	宮城県、東京都

市内全公立保育所ではじまった給食食材の公表。写真は開田保育所。

公立保育所の給食については、保護者からも産地の問い合わせがあり、10月17日以降の献立に使われる野菜の産地が1週間単位で公表されるようになりました。

学校給食については、まだ市独自の公表にはいたっていませんが、食材を市町村に供給している(財)学校給食会を通じて産地もすべて掌握できます。子どもの食の安全・安心を願う保護者の思いに応えるために、ぜひ市が産地や測定結果の公表を給食の献立にあわせて取り組むよう、引き続き、求めていきます。